日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

浦田喜久子 日本赤十字社事業局看護部長 学校法人赤十字学園常務理事：私の仕事2010マネジメントの流儀編

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2016-02-20
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 浦田, 喜久子
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://jrckicn.repo.nii.ac.jp/records/485

私の仕事 2010 マネジメントの流儀編

浦田 喜久子
日本赤十字社事業局看護部長
学校法人赤十字学園常務理事

本連載では病院以外の施設で働く管理的立場の看護職を紹介します。実践と経験によって培われた管理者たちのマネジメントの流儀からは、その施設ならではのマネジメントの楽しさや厳しさが見えてきます。今月は、日本赤十字社で医療施設と看護教育施設の管理を担っている浦田喜久子さんに、仕事内容やマネジメントで心がけていることなどを語っていただきます。

日本赤十字社事業局看護部長になったきっかけ

赤十字の看護教育施設を卒業後、赤十字医療施設・教育施設、日本赤十字社（本社）と、ずっと赤十字の施設で勤務してきましたが、あるご縁で、市立の看護大学に勤務しました。そこでは、大学教員として、あるいは市の職員としての使命など、多くのことを学びました。

一方、赤十字を離れて外から眺め、赤十字の理念や活動、組織の在り様など再認識しました。そのような時、たまたま本社看護部長を薦められ、自己のアイデンティティが赤十字の理念にあることを感じ、もう一度、赤十字に戻って赤十字らしさを自分自身にも組織にも輝かせたいという思いで引き受けました。私には荷の重い職務でありましたが、私にもきっと何かできることがあると信じて飛び込みました。

現在の仕事の内容

本社看護部の主な仕事は、全国赤十字の医療施設と看護教育施設の看護および看護教育に関する方針策定、その管理プロセスの進捗管理です。

また、赤十字の使命である救護や国際救援のための派遣や人材育成にも、救護福祉部・医療事業部や国際部と連携して取り組んでいます。

赤十字は、全国に92の医療施設と18の看護専門学校・助産師学校、幹部看護師研修センターを持っています。また、学校法人赤十字学園は大学6校と短大1校を運営しています。赤十字学園と日本赤十字社が一体となって、赤十字の看護師養成事業を推進し、私は同学園の常務理事として関与しています。

現在、看護師・看護学生・看護教員の確保と看護・看護教育の質の向上を重点方策として努力しています。確保や定着促進については、広報活動や働きやすい魅力ある職場づくりに全国の赤十字医療施設・看護教育施設が一体となって取り組み、また、キャリア開発ラダーを導入し、やり甲斐のある質の高い看護の提供に努めています。

今後は、チーム医療の促進やリフレクションの活用など、看護の専門性を発揮し、看護や赤十字の価値を見いだせる仕組みをつくりたいと思っています。

PROFILE

うらた きくこ

日本赤十字社事業局看護部長
学校法人赤十字学園常務理事

1972年福岡赤十字高等看護学院卒業後、熊本赤十字病院、福岡赤十字病院、日本赤十字社衛生部看護課、日本赤十字武蔵野短期大学講師、日本赤十字中央女子短期大学講師、神戸市看護大学助教授として勤務。その間、日本赤十字社幹部看護師研修センター、青山学院大学文学部教育学科、熊本学園大学大学院経営研究修士課程を卒業。2006年認定看護管理者取得。熊本赤十字病院では、看護部長を5年間経験した。2003年から現職。

私のある一日

6：00	起床
9：00	出社
9：30	部内打ち合わせ・調整
10：00	検討会打ち合わせ
11：30	ブリーフィング（タンザニア派遣看護師）
12：00	昼食
13：00	デブリーフィング（アフガニスタン派遣看護師）
13：30	会議（16：30まで）
15：00	来客（会議の合間に、人事案件）
16：30	面接（人事）
17：30	決裁・資料のチェック
18：30	打ち合わせ
20：00	退社、帰宅
24：00	就寝

業務を進めていく上で最も気をつけていることは、全国の管理者との距離をいかに近くするかということです。たとえ立派な方策を立て、伝えたとしても実行されなければ絵に描いた餅になります。方策は、現場に即した課題であり、具体的で実行可能なものでなければなりません。そのためには、現場の声、データ、協議を繰り返した上での立案など、相互に時間をかけた積み上げ作業をしていくプロセスが重要と考えています。

日常的に顔を合わせることができない状況で、メールや電話でのやり取り、検討会や研修会の開催時に可能な限り顔を合わせてコミュニケーションを図ることに努めています。また、現場を訪問することも効果があります。地方での会議や行事参加の折には努めて訪問し、自分の目で施設の「まるごと把握」をするようにしています。

施設の数が多く、その規模がさまざまなこと、地方やその施設特有の特徴がありますが、それぞれの違いや特性ごとのグループ同士から見えてくるものも多く、グループメリットが活かせるよう、それぞれの管理者のコミュニケーションの促進にも努めています。

また、管理プロセスの進捗管理については、本社の方策を実行可能にしていくために、目標の連鎖を確実にできるようシステム化して実施しています。全国の看護部長・副学校長はそれぞれ看護部長会・副学校長会を持ち、さらに、地域ごとにブロックに区分しています。この組織を活用し、方策をブレイクダウンしながら各施設へつなげ、ゴールをできるだけ具体的に表現し、「見える化」して評価までつなげています。このように実施するようになって、確実に結果が見えてくるようになったと実感しています。これも、各看護部長や副学校長の努力の成果と思っています。

マネジメントで心がけていること

私のいちばんの役割は、組織（赤十字）の理念の継承だと思っています。昨年は、赤十字思想誕生150周年であり、日本赤十字社は130年余り、看護師養成事業は今年120周年を迎えます。この歴史ある赤十字をつなぐ者としての責任を、重く受け止めています。「人道」という赤十字の理念にそれぞれの職

員がコミットメントし、具体的な行動が取れることを期待しています。

価値観の形成に関わることなので難しいことのように思いますが、「人道」は「人の苦しみが分かり、人を尊重して相互に助け合うこと」という、看護にも赤十字の理念にも共通し、シンプルに考えれば人間誰でも持っている「こころ」です。そうした意味で人間の原点を見つめれば、「人道」を理解し、行動できると楽観している部分もあります。原点を見つめることを促進できるよう、リフレクションを活用しようと考えています。

次に、組織における個人を大事にしたいという思いから、キャリア開発ラダーを導入しました。個人の意思に沿ってキャリアを形成するには、組織はそれを支えていく必要があり、自由にものが言えるオープンで、相互に学び合える組織を目指しています。

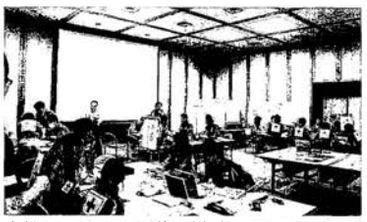
最後に、私の直属のスタッフには、できるだけ仕事は最初から最後まで任せるようにしています。企画の段階で十分に協議をして目標を明確にしたら、後は担当者が責任を持って進めるようにしています。本社の仕事は、各施設のトップマネジャーとの交渉になりますので、容易ではありませんが、目標に到達すれば、直接当人へ反応が返ってきますので、やり甲斐や成長にもつながっているように思います。

私としては、できるだけ、国の動きや社会の動きを把握するよう努力しています。また、看護関係者に留まらず、経営関係の方々ともお付き合いするよう努力しています。

今の関心事

地球温暖化に伴う気候変動により、世界の至る所で地震や津波などの大きな災害が発生し、多くの人々が甚大なる被害を受けています。また、紛争等も絶え間なく起こっており、一般市民も巻き込まれて被災しています。

身近な社会では、無差別殺人や人々のいがみ合い、ストレスなどに起因するうつ病や自殺者も増加しています。ニュースを見る度に殺伐とした世の中になっていると、将来の行く末が心配になります。もっと、お互いが許し合い、居心地のよい社会になることを希望しています。それは、自分の隣の人を理解し、助け合うことによって徐々に開けてくることかもしれません。現在の経済優先、いき過ぎた成果主義の波から、もう少し環境や人に優しい生き方、社会のあり方について考えていく必要があるのではないかと思っています。K



本社における救護訓練（東海地震を想定して）

日本赤十字社

【施設概要】

- 設立年月日：1877（明治10）年博愛社として設立、1887（明治20）年に日本赤十字社と改称
- 事業内容：国際救援・開発協力事業、救護活動、医療事業、看護師養成事業、血液事業、社会福祉事業、ボランティアの育成・救急法等講習会の開催、赤十字諸条約に基づく業務
- 職員数：5万7,944人（うち看護職員数3万2,786人）（2009年4月現在）
- 施設：本社1、支部47、医療施設92、看護師等養成施設25、幹部看護師研修センター1、血液事業施設208、社会福祉施設28
- 赤十字の機構：赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟（各国赤十字社の連合体、加盟186社）